

会 議 録

会 議 名 平成 25 年度 第 2 回 社会教育委員会
開催日時 平成 25 年 10 月 18 日（金）午前 9 時 30 分から 11 時 10 分まで
開催場所 東浦町文化センター 2 階視聴覚室
出席者 社会教育委員 石原弘幸氏、梶川達彦氏、長坂典子氏、鈴木万里子氏、
久米清之氏、田頭美紗子氏、川澄知里氏、天野圭二氏、
恒川 渉氏、松下玲子氏
事務局 教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、スポーツ課長、
生涯学習課長補佐兼係長、郷土資料館課長補佐兼係長、
生涯学習指導員
欠席者 万徳久志委員、教育長

議 題 1 平成 27 年度東海北陸社会教育研究大会愛知大会での発表について
2 その他
① 愛知県社会教育委員連絡協議会総会報告について
② 愛知県人権教育指導者研修会報告について
③ その他

傍聴者の数 なし

審議内容

生涯学習課長

次第に従い会を進める。最初に委員長、次に教育部長より挨拶をいただく。

委員長

文部科学省から出された第 2 期教育振興基本計画の中の 4 つの基本的方向性について、「絆つくりと活力あるコミュニティの形成」が第 4 項目として掲げられている。各コミュニティの祭りや産業まつりは時機を得ている。

教育部長

欠席のため教育部長が代理で挨拶。

台風 26 号の被害は町内では少なかった。生涯学習課・スポーツ課・図書館各々の上半期の取り組みは、概ね順調に進んでいる。下半期も計画通り進めていきたい。

委員長

次第に従い、議事を進める。1 号議案「平成 27 年度東海北陸社会教育研究大会愛知大会での発表について」について、事務局から説明を求める。

事務局

配付資料に基づき説明。

愛知大会での発表の分科会は未定であるが、東浦町らしさを出した発表にしたい。地元への愛着や絆を強める活動という観点で、於大まつりを中心にして絆を強める東浦町民の現状そして、まつりに関わる社会教育委員の活動を紹介する案を提案する。以下、項目の骨子を説明。

委員長

現状の社会教育委員としての活動は、直接的な活動は無く、町の生涯学習への提言が中心である。故に、特徴的な活動を発表するために、事務局は於大まつりを素材とすることを提案している。事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

委員

27 年度大会の分科会及びその運営方法は決まっているか。

事務局

発表者は社会教育委員による発表を考えている。分科会等の詳細は、現時点では明確には示されていない。

委員長

本年度の三重大会では6つの分科会である。大きな変更はないと考える。東浦町が参加する分科会はまだ決まっていない。また、参加する分科会を希望することはできない。

委員

どのような分科会になっても事務局素案をアレンジしていけるのではないか。

委員

そのように考えないと方向が定まらないのではないか。

委員

27年度大会では東浦町は於大をアピールすることはよいと考える。素材は於大まつりとし、重点の置き方を考えればよいのではないか。

事務局

どのような分科会になろうと於大まつりで差支えないと考える。当日の質疑応答において明確に答えるために、まつりの担当課から職員を派遣してもらうこともよいと考える。

委員

27年度までに、史実に基づくことにこだわらず、於大まつりそのものをさらに盛大なまつりに変容させていくことはできないか。そして、27年度大会においては、社会教育委員会から、まつりへの提言をしたことを述べてもよいのではないか。

委員長

まつり活性化委員会では、20代30代等各世代の於大姫の参加、有名武将の参加、参加者の増員などの意見は出ている。

委員

社会教育委員として、祭りの活性化の話し合いに関われるといい。

委員

東浦中学校では、まつりの前に、生徒が明徳寺川清掃に参加していた。まつりは絆づくりに関わっていることは間違いないが、絆づくりにこだわった発表にすることはいかがか。まつりの活性化にむけて話し合うことも社会教育委員会としての立派な活動ではないか。また、27年度発表までに社会教育委員会としてまつりに関わったり学校等に提言したりすることができるように。

委員

於大まつりの企画・運営はどのようにされているのか。

事務局

商工振興課が中心となって、まつりに直接参加する団体の代表、商工会、各区長等で実行委員会が構成されている。

委員

ほとんどの関係団体の代表は出席している。意見は少ないが、その場の提言により確実に変化しているように思う。

委員長

於大まつりの反省会では、次年度への方向について話し合われている。しかし、そこで出されたどの意見が採択されるかははっきりしない。

事務局

反省会などで出された改善意見は担当課で吟味検討される。27 年度発表では社会教育委員が関わっている内容を発表することが最も良いと考える。東浦町として何をアピールするかは大切である。於大まつりと公民館活動をからめてもよいと考える。

委員

図書館は産業まつりに向けて町民へ提供する本の検討をしている。今後は、於大まつりに合わせて、図書館や資料館でも展示や活動を仕組めばよいのではないかな。

事務局

資料館であれば、於大まつりに合わせて企画展を発表することができる。於大まつりのような 1 つの行事に各部署が合わせて関わるとよい。

委員長

生涯学習課で育成しているふるさとガイドが、まつりの当日に参観者のガイドをすることもできる。

委員

事業仕分けの会において、仕分け担当者に町内のコミュニティ活動の概要を説明する機会があり、活発な活動への共感を得た。

事務局

於大まつりも多く多くの団体が関わっている。於大まつりをテーマにし、生涯学習課の活動を交えて、発表案をまとめていきたい。

委員

研究発表を意識した組み立てにしたい。そのためには、はじめに、各市町が共通して抱える課題を提示し、次に、課題の解決に向けて社会教育委員会として出来ることは何かを示し、於大まつりがそれらの解決につながっていることを示せばよいのではないかな。していることの紹介だけではなく、現在の町社会教育委員会が直面する課題を提示しその解決について活動していることを発表していけばよい。時間が限られているので、於大まつりに絞って発表することはよいと思う。

委員長

研究という視点での貴重な提言である。事務局そして委員全員の総力でまとめいきたい。素材として於大まつりを扱うことはよいのではないかな。

委員

小学校では、於大まつりやその背景を学ぶことは、自分の住む町を知るきっかけとなる。今後は、於大まつりへのいろいろな接点を見つけて示していきたい。

委員

於大まつりには開始当時から関わっている。最近は「地元」という視点でまつりを見直すことが必要と考えている。

委員

町内各地区には伝統ある祭りがある。於大まつりは、東浦町全体で祝う祭りでありその誕生は画期的である。今では、於大公園そして於大まつりは東浦町民の心の拠り所になっている。「核家族化の進行→大切となる絆→絆を強める活動の必要性」と言えるのではないかな。絆を強める活動は於大まつりに限らず色々ある。於大まつりの関連では、小学校ではまつりやその背景の学習、中学校では明徳寺川清掃などがある。社会教育委員が関わるができることも多いのではないかな。

委員

於大まつりへの各団体の 1 つ 1 つの関わりを掘り起し、皆がまつりに関わっている

ことを示し、次に生かすことを見つけていくことはとても大切である。

委員長

本日出された多くの意見を生かし、素案をまとめていってほしい。

生涯学習課長

いろいろな意見をいただいた。素案をまとめる際は委員の助言助力をお願いしたい。

委員長

他に意見がないので、第2号議案「その他」を議題とする。

はじめに愛知県社会教育連絡協議会総会について、続いて愛知県人権教育指導者研修会について報告を求める。

委員

配付資料を基に総会及び名古屋柳城短期大学学長新海英行氏の講演の概要を報告。

委員

配付資料を基に、知多市デートDVD防止啓発活動実行委員会の実践、津島市人権教育推進協議会会長水谷瀧男氏の講演及び人権シンポジウムの概要を報告。

委員長

報告への質問及び、その他の予定議題がないことを確認し、議事の終了を宣告。

生涯学習課長

次回の委員会について連絡。次回は平成26年3月17日（月）午前9時30分から、東浦町文化センター2階視聴覚室で開催。

委員長

本日の議事日程を全て終了した旨を告げ、午前11時10分に閉会を宣告。

備考 なし